

郷土館発

郷土館で、木地師さんの
心のふるさとを
訪ねてみませんか

「久しぶりに山が見たくなつて
ねえ。家族をみんな誘つて来た
んだよ。」

昨年夏、大垣市在住の大蔵さ
んが来館してくださいました。
大蔵さんは、江戸末期から明
治にかけて、井山や段戸で木地
師の総裁として活躍した磯次郎
さんの曾孫です。

「山が見たくなつてねえ」の言
葉に木地師さんの郷愁を感じま
した。

私達の生活に絶対必要な物の
一つに食器があります。お椀や
お盆等の食生活に関わる円形の
木製品のほとんどが木地師さん
達の作品です。



ろくろ、かんな、砥石、木地製品など



木地師のしごと(『斐太後風土記』より)

れていません。その仕
事が、材料の木を求め
て各地の山々を移動す
るため定住することが
困難で、里人との交流
も限られていたからで
す。

木地師さんの生活の
一部を郷土館に展示し
ています。

郷土館を訪れ、私た
ちの生活の足元を切り
開いた人々のくらしと
触れ合ってみませんか。

(奥三河郷土館

加藤 紘市)

津具高笹地区(茶臼山高
原道路天狗棚駐車場下)に
木地屋敷が復元されてい
ます。木地屋敷もお訪ね
ください。

椀や盆等を作る大切な道具は
轆轤(ろくろ)です。轆轤を回転
させ、回転する木地に鋭く切れ
味のよい刃物の切先を当て、少
しずつ木地を削りながら形を整
えます。土間に鍛冶場を作り、
刃物も自分で作ります。刃物を
研ぐ砥石も大切な道具です。製
品がひび割れしない工夫も大切
です。それらの知恵と努力は驚
かされることではないです。

私達の生活に深く関わる仕事
なのに、その様子はあまり知ら



津具復元木地屋敷